

中国山東省における民間児童美術教育について

劉 霄^{*1}・福田 隆眞^{*2}

On the Folk Education of Children's Art in Shandong province, China

LIU Xiao^{*1}, FUKUDA Takamasa^{*2}

(Received August 2, 2018)

キーワード：校外美術教育、民間美術教育、カリキュラム、創造力、表現力

はじめに

児童芸術教育は現代の中国の教育課題として教育者と研究者に注目されている。近年、中国の民間芸術教育は急速に発展しており、その要因は、政策の推進、社会経済の成長、家庭の教育理念などがある。教育改革と課程改革の推進に従って、幼・小段階の美術教育が重視され、「軽創意、重技法」の教育理念から創造性も技術、技法も重視する考え方に変わることになった。その上、校外の美術教育機関は政策や家庭の教育観の変化や市場ニーズなどの要因から見ると、その発展が急速に増えている。このうち、校外の児童美術学校の数、学生数、学校の規模が拡大しているため、校外の美術教育は中国の美術教育に重要な構成部分となっている。本稿は民間児童美術教育について現状の把握および認識を明らかにし、民間美術教育の意義を述べる。

1. 民間教育について

ここでは中国の民間児童美術教育の考察のために、民間教育の定義、政策の背景、現代の中国の経済的背景、家庭の変化について述べる。

1-1 定義

校外美術教育とは、学校教育以外の美術教育のことであり、教育場所は青少年宮や児童活動センター（国が教育活動を提供する経費）や民間美術教育機関などにあつて、学生の課外時間で行われる美術教育である。児童美術教育は、子供の成長の重要な一つの文化教育活動であり、その価値は、美術教育を通じて、子供の人格発展を促進し、情操を陶冶し、「美意識」、「美の理解」、「美の表現」を育成する教育である。現在の中国の美術教育は学校教育と学校外教育に分けられる。学校外の美術教育は、民間美術教育と呼ばれる¹⁾。

1-2 政策の背景

中国では、最初の校外教育機関は1949年4月の大連市に少年宮²⁾が設立されたものである。1960年代までに、中国の校外教育機関（民間教育）は次第に形成された。2001年4月、中国教育学会少年児童校外教育専門委員会は年度大会で、「少年児童校外教育活動課程のシステムを構築する」という要求を明らかにした。同年6月には、中国教育部が「基礎教育課程改革綱要（試行）」を公布した。課程の改革は全国で展開し実施された。その上に、中国教育学会少年児童校外教育専門委員会は、「児童校外教育の課程体系は、素質教育の背景の下で実施し、学校教育の課程体系と区別し、校外教育の特性を持つ、校外教育の規律に合わせる新しい概念である。」を提出した³⁾。

民間教育は政府が支持する教育機関として、一部の地域では急速に発展しており、その原因は近年での民

*1 山口大学大学院東アジア研究科 *2 山口大学理事・副学長

間の美術教育機関の理念の普及と宣伝によって、児童の美術教育の重要性が認識されたことである。また、経済成長に伴い、家庭の年収の向上、教育理念への関心の増大のよって、子供の教育と成長の問題に関心を持つようになった。これらが民間美術教育の発展のための重要な推進力であると考えられる。

1-3 経済の背景

まず、中国の経済成長の概略を述べる。中国の経済は、1978年の躍進期を経て、2000年以降に急速な成長期に入った。特に2006年以降の10年間に平穏な成長期に入ってきた。社会経済の成長に伴い、国民の人均可支配收入と人均消費支出が年々増加していることから、国民の生活水準も着実に向上している。⁴⁾

中国の国家統計局によると、2017年までに、年収の一人当たりの自由になる金額は25974元（日本円約445,577円）であり、昨年より9.0%増加した。価格要因を差し引いて実質的な成長率が7.3%増加した。2017年、一人当たり支出した金額は18322元（日本円約314,308円）で、昨年より7.1%増加し、価格要素を差し引いた実質的な成長率は5.4%増加した。⁵⁾（2018年2月28日「中華人民共和国2017年国民経済・社会発展統計公報」）

地域の一つの例として山東省について述べる。山東省は、中国の経済総量の第二省として、全省の常住人口10005.83万人である。このうち、0～14歳の人口は全人口の17.21%を占め、15～64歳の人口は68.80%を占め、65歳以上の人口は13.99%を占める。⁶⁾

済南市は山東省の省都である。済南市常住人口723.3万人、在籍人口632.8万人（2016年末の統計データによると、データ統計：済南市統計局）、住民の人均可支配收入は都市部で43052元（日本円約738,545円）と農村部で15346元（日本円263,256円）、年増加率9.4%と10.6%である。（2017年政府活動の報告）

経済成長に伴い、家庭の人均可支配收入の向上により、多くの家庭の消費観念が、教養や教育にお金をかけるようになった。特に、家庭は教育への投入比重も年々増えている。国家の規定によって、9年制義務制教育の段階では、授業料は無料であり、政府は基本的な教材費だけを受け取っている。そこで、家庭の教育の支出は、基本的な学校教育の料金以外を除いて、家庭の自由になる金額が多いほど、学校外の教育に対する選択性が大きくなる。このような現象は国民の消費理念と教育観の変化を反映してきた。教育観念の転換に伴い、多くの家庭は子供の校外生活を豊かにするために、子供の素養を高め、内在的な潜在力を発掘し、教育ニーズが大きくなった。このような教育ニーズがあるからこそ、民間教育学校の数も増えており、少年宮と児童活動センターなどの公益教育の場所を除いて、ほとんどの民間教育機関は民営化している。多くの民間教育機関は学生募集とブランド力を拡大するために、教育の質とサービス水準を絶えず向上している。このため、市場競争は激しく、将来性が高く、大規模な民間教育学校が生まれた⁷⁾。

1-4 家庭の背景

1980年に中国の「一人っ子」⁸⁾政策が実施されて以来、中国の特色ある家庭構造が形成され、即ち「4-2-1」⁹⁾の家庭パターンである。そのため、家庭での子供の教育問題に関心が集まっている。

若い親の教育理念の変化に伴い、子どもの教育選択には、子供自身の発展の視点から、教育方式を選ぶことが増えてきた。つまり、子供の最初の教育は家庭から来ており、家庭教育の環境は子供の将来の発展に大きな影響を与えている。例えば、親のセンス、審美、修養、文化レベル、コミュニケーションのとり方などが子どもに影響を与える。伝統的な芸術教育の理念の中で、音楽、美術、舞踊などは、子供の芸術の素養、技能を育成する主な学科であり、例えば、美術の学習は流派、技法、伝統絵画などの観念を学ぶことがあるが、子供の「創造的な問題」は美術学習の過程で軽視されてきた。近年、「創造力の育成」、「児童期の芸術教育開発の重要性」などの新たな美術教育の理念の導入に従って、中国の民間芸術教育が発展する一つ要因となっている。

中国では、近年、教育改革が進められており、教育の理念が深まるにつれて、従来の「知識詰め込み」による知識偏重の教育に対して、特に1980年代以降の若い親は、人間発達を全面的に捉えて個人のもつ潜在的な能力を引き出す児童期の発達に注目している。児童期の発達は、知力・創造力・想像力・表現力を開発するために重要な時期である。多くの若い親が、児童期の芸術教育を重視するようになり、特に、3～12歳段階

での児童は、美意識・認知・創造力・想像力・表現力などを形成する重要な段階である。以下の内容は、筆者の2年間にわたる教育実践と実態調査である。この考察の例は、中国の民間児童美術教育について、山東省済南市を例に美術教育の実情について述べる。

2. 楊梅紅国際私立美校について

2-1 学校の紹介

筆者は、2016年4月から2018年3月まで、中国の山東省済南市の児童美術学校で教育実践を行った。学校名は「楊梅紅国際私立美校」で、民間学校に位置する。創始者の楊梅紅が、学校名の由来である。「楊梅紅国際私立美校」は最初に2005年に建校した。絵画を専門に勉強する専門学校であり、センターはワシントンと深圳市にあり、他の学校はトロント、パリ、北京、上海、台湾、成都、済南などの地区にある。運営している学校は150余校がある。

本研究の事例は、山東省済南市の楊梅紅国際私立美校を対象としている。済南市の楊梅紅国際私立美校は2015年10月から2018年3月までに、三校を開校した。全在学人数（3～18歳）は2600人であり、教職員は41人いる。その内訳は男性教員が7人、女性教員が34人である。今でも学生数と教職員数は増えて続けている。授業時間は平日の学校の課外時間と週末に行う。

2-2 教員の紹介

現職の教員は大学卒業以上の学歴で、大学の専攻が芸術の分野や師範大学の美術専門の卒業生である。また、児童美術教員は絵画の専門性を備え、子供が好きで、芸術を熱愛する。児童美術教員の仕事は、授業だけではなく、仕事内容がとても多くて、教育の対象者は3～18歳の子供である。そして、児童美術教員として3つの心を持っており、「責任心、愛心、耐心」が必要である。

教員の構成については、教職員の数は41人いる。その中で33人は山東師範大学、山東工芸美術学院、山東芸術学院、山東軽工業学院、山東建築大学などの美術専門の卒業生であり、3人が学校や少年宮やその他の関係機関の教師であり、ほとんど1～2年以上の教育経験を持っている教師である。また5人は、デザイン、広告、アニメ、絵画の仕事経験がある人である。

2-3 課程の紹介

ここでは「楊梅紅国際私立美校」における教育目的、カリキュラムについて述べ、次章で本校の特徴の一つである教育方法、教材について述べる。

(1) 美術教育の目的¹⁰⁾

美術教育を通して、児童は簡単な美術知識と基本的な造形能力を身につける。審美的能力、自然と生活を愛する感情、よい表現力などを育成できる。また、観察能力、集中力、創造能力、想像能力なども育成できる。

(2) カリキュラムの設置¹¹⁾

課程は必修課と選択必修課に分けて、クラスのレベルは年齢段階によって、それぞれのクラスを設置する。必修課は3～12歳の絵画課程であり、選択必修課は6～18歳の専門課程である。各クラスの人数は学生12人、教員2人。

必修課	选修課
3～4歳クラス (60分)	水墨画クラス (6～18歳、90分)
4～6歳クラス (90分)	動画クラス (6～18歳、90分)
6～9歳クラス (90分)	服装クラス (6～18歳、90分～120分)
10～12歳クラス (90分)	国際クラス (10～18歳、90～120分)

必修課

3～4歳クラス (多形式の絵画など)

4～6歳クラス (版画、色彩、絵画、水墨画、粘土、立体作品など)

6～9歳クラス (水墨画、色彩画、彫刻、版画、黒白構成画など)

10～12歳クラス（デッサン、色彩、写生、鑑賞、立体造形創作など）

選択必修課

水墨画クラス（伝統水墨、現代水墨、写意、工筆、重彩など）

動画クラス（脚本創作、平面絵画、挿絵、絵本創作、漫画など）

服装クラス（平面絵画、色彩、服装デザイン、鑑賞、カッティングなど）

国際クラス（デッサン、色彩、写生、芸術鑑賞、造形訓練など）

（3）カリキュラムの目的¹²⁾

3～4歳：芸術の啓蒙課程、芸術の興味と創造の意欲を喚起する。

4～6歳：多様な美術形式の体験、手で作る能力を高め、創造力を発掘し、自信を構築する。

6～9歳：絵画と創作の練習を通して、基本的な美術技巧を熟知する。

9～12歳：系統的な美術を学ぶ、形の訓練を通して、造形力と表現力を高める。

（4）カリキュラムの目標¹³⁾

3～4歳クラス：子供は面白いゲームの中で、勉強の興味を起こす。子供は他の子供、教師、親との交流の過程で、基本的な社交能力を育成する。本年齢段階のカリキュラムは、子供が色彩を識別し、形状に触れ、感情を表現し、子供の身体機能の調和および開発を促進し、初期の芸術育成の萌芽期である。

4～6歳クラス：4～6歳段階は子供の意識の最も活発な時期であり、子供の創造的な思いを育て、子供が芸術の啓蒙段階から独立的な創作段階へと移行させる段階である。教育者は様々な材料と多様な芸術表現手法を提供して、子供の潜在力をかきたてる。また、この時期は人格形成の重要な段階である。

6～9歳クラス：6～9歳段階の児童は、より複雑な絵画の技法が受けられ、手と脳の一致を実現する。カリキュラム内容は、たくさんの平面絵画の練習を通じて、専門的な芸術分野の学習に入り、子供の創作能力を育成するとともに芸術素養を全面的に高める。また、教育者たちは子供の様々な性格の特性に対して、芸術的潜在力を発掘する。

9～12歳クラス：9～12歳の児童は、一定の立体空間の理解力と抽象的な思考力を持つので、作品を通じて平面と立体の関係が表現できる。デッサンと色彩の訓練を通して、「目に見えることを手で作れる」ことを達成する目標である。

3. 楊梅紅国際私立美校の教育内容について

3-1 教育方法

「簡筆画」¹⁴⁾、「模倣式」に反対し、「引き込み式」、「啓発式」、「激励式」などの教育方法を用いる。

教育方法の実施原則は三つ部分に分けている。一つ目は教育の実情から行う。二つ目は児童の年齢的特徴と認知水準に適合する。三つ目は革新精神を持つ。

教育の実施の中では、教員は指揮者ではなく、協力者である。子どもが困難に出会う時に適切な指導を行う。それによって、子どもは教室の主役として個人の能力を発揮する。このような授業の中で、子どもは一人ひとりの能力を体現することができる。つまり児童主体とする教育である。

教員の要求に対しては、対象が子供であるため、子どもが理解しやすい言葉で課程内容をはっきり伝えなければならない。以下は教育方法および授業の三つ部分「導入・創作・評価」である。



図1 創作中の指導



図2 作品のやり方を教える

導入

① 演示式

演示式は授業内容を結びつけて、絵本を話すことと簡単な形の模倣を通して、知識を伝える。

② 展示式

世界中での有名な美術作品を展示したり、教師と他の子どもの作品を展示したりして、作品鑑賞の方式を通じて新たな創作の構想を開く。

③ タッチ式

美術材料は多種多様で、美術以外の総合材料も含まれている。材料の性質と用途を説明することで、タッチを通じて、子どもに材料の特徴を理解させる。

④ コミュニケーション式

コミュニケーション式は、教師と子どもがお互いに交流して行う方法である。双方は情報コミュニケーションをするとともに、子どものコミュニケーション能力を高め、自分の理解力と観察力を利用して簡単な発表を行う。

⑤ ゲーム式

ゲーム式はすべての子どもに適用される教育方法であり、美術課程と結合しやすい。教師は、課程のテーマに応じて、自分で作った面白いゲームで、「遊び」を通じて知識を伝える。

⑥ 鑑賞式

鑑賞式は子どもの感性認識を豊かにし、視野を広げ、美術の素材を積む教育方式である。作品の対象は世界の名作の鑑賞、自分の作品鑑賞、子ども間の作品鑑賞などである。鑑賞式の方法で、芸術素養を高め、自分の感想を明らかにし、独自の観察力、鑑賞力、審美力を育成する。

創作

① 啓発式

啓発と引き出す方法で想いを伸ばし、子どもが独自の視野と表現力で作品の創作を行う。

② 発想式

「点、線、面」など美術の要素を発想の原点として、大胆に想像力を発揮し、一つの物体から別の物体までを発想することで、このような関連した思考方法で子どもの想像力を訓練する。

③ 示例式

作品を作る前に、授業のテーマを明確にするために、教師は手本といくつかの優秀な子ども作品を展示して、子どもたちに参考素材を提供する。しかし、展示が終わった後で、すべての展示作品は、子どもの模倣を防ぐために回収しなければならない。

④ 観察式

イメージ、映像、身近に見える物（風景、人物、動物、植物など）を利用し、観察することで身近な「美」を捉える。

⑤ 激励式

作品の中の良いポイントを指摘して、子どもに適切な励ましを与える。しかし、このような励ましは必ず具体的なものである必要がある。例えば、良いところは何ですか、なぜ良いのか、良いところがどこかと思う。これも子どもの作品のいい励まし方である。

評価

すべての子どもの作品が完成した後、自分の作品を逐一説明し、評価し、分析するようにする。しかし、子どもが伝えることができない場合は、適切に助言し、解説を助ける。最後に教師は客観的な評価で児童の作品を分析して、且つ作品の中での良いところを指摘し、表彰を与える。

3-2 教材教具

教科書はなく、教師たちは毎週月曜日から一週間の授業の内容、絵の具、教具、授業検討会などを準備する。教材の使用について、各クラスの担当教員は、毎週の課程テーマと「範画」¹⁵⁾に合わせて、美術教材を用意している。子どもの作品の豊かさを高めるために、教材の準備では、通常美術用具のほかに、複合材料とエコ材料と廃棄物などを収集して提供する。以下は通常的に使われる教材として次のようなものがある。水彩ペン、クレヨン、ガッシュ、顔料、粘土、総合材料、エコ材料、廃棄材料などである。

3-3 作品の紹介



図3 「点の発想」 3歳



図4 「毛虫が家に帰る」 3歳

図3の作品は、3歳段階の授業「点の発想」であり、アクリル絵の具で、点の理解と発想を通して創作を行ってきた。テーマは点の形で造形と構図を表現し、対比色を配色して画面に調和を与える。

図4の作品は、「描く、塗る、貼る」のコラージュの作品である。絵画材料はクレヨン、水彩、オガクズを使用する



図5 「私の提灯」 3歳



図6 青いだけが好きな子

図5は手作りの立体作品である。この授業で、材料はカラー紙、縄、絵の具だけで、「提灯」の作り方を勉強し、スタイル、テーマ内容、他の材料の運用などは自分で決めて作る。

図6の子は、毎回の授業での作品は青だけを使う。青いクレヨン、青い紙、青い顔料…美術が大好きな子である。



図7 「自画像」 4歳



図8 「龍」 4.5歳

図7の授業は90分内で自分の自画像を描く。印象の中での自己の様子でも良いし、友達の話した自己でも良いし、自分がなりたい人でも良いし、未来の様子でも良いし…創造力と造形の練習である。

図8は「龍」の伝説についての授業で、教師は中国古代の龍の由来を説明した。龍の形が9種の動物で構成された。龍の特徴、構造、歴史意義などを勉強し、自分の理解によって、手で作る。



図9「おいしいピザ」4歳



図10「おいしいピザ」4.5歳

図9、10は4～6歳段階の作品である。みんなが好きな食材は粘土で作れて、粘土ピザの上に様々な物を置いて、なすピザ、卵ピザ、アイスクリームピザ、果物ピザ、唐辛子ピザなど様々な童心のピザが生まれた。とても楽しかった雰囲気である。



図11「動物の幻想」版画 8歳



図12「動物の幻想」版画 9歳

図11、12の作品は平面絵画+版画の形式である。6～9歳段階の児童は美術の練習を通じて、観察力、想像力、表現力の高め、作品の構図、造形と画面の処理に一定の能力を持っている。作品の中で描いたものから見ると、似ていることと似ていないことが審美基準である。



図13「夏休みの旅行」10歳



図14「自由画」12歳

図13の作者は夏休みの旅行の時に、現地でスケッチを描いた。作者は日本の町、天空、風景、環境が大好

きで、好きなどころで絵を描いたと言った。

図14は水墨画が上手な子が友達を描いた絵である。作者はデッサン、水墨画を勉強している。将来、美術専門家になりたいので、美術の学習を続けている。

教育の調査を通じて、学校教育の美術教育に比べて、違うところは3つのポイントがあり、カリキュラム、教育方法、教材の使用である。これらのポイントは子どもの美術の学習成果に直接的な影響を及ぼす。民間美術教育は、更に子どもの自然と身近なものの観察と理解に注目し、教師と子どものコミュニケーションの交流を重視し、子どもの審美意識、創造力と表現力の向上が育成目標として展開してきた。

4. まとめ

近年では、家庭の教育観が変化し、中国の民間児童美術教育が盛んになり、児童の早期教育開発への関心が高まってきた。素質教育が普及している背景下には、民間教育が学校教育の補完として、その役割と価値を積極的に発揮している。教育側、社会側、家庭側との関係は密接に繋がっている。また、家庭経済力の向上は社会発展の環境と密接につながっている。現代の中国での「4-2-1」の主流の家庭構造や未来の「4-2-2」¹⁶⁾の家庭構造の傾向から見ると、子供は家庭構造の中心として、子どもの早期の芸術教育についての問題が現在の課題である。

民間美術教育学校の調査例として、楊梅紅国際私立美術学校は、地域の代表的な民間美術教育機関である。民間美術教育の特徴は、「興味性、柔軟性、創造性、科学性」であり、伝統的な学校教育と区別される場所である。しかし、民間美術学校には、具体的な課程標準と教育規範が欠け、民間の教育機関は市場競争だけで生命力を保つだけでは不十分である。しかも、民間美術学校の数が増え、市場の競争が激しくなり、学校外の民間教育が長期的な仕組みの中に入ることは、市場の規範化と教育の健全な発展に大切な要因となっている。学校の本質は教育であり、教育の主な形式は授業であり、教育の中心はカリキュラムである。民間美術教育においてカリキュラムの構築は児童の参加を呼び込む経営の重要な問題である。したがって民間美術教育では科学性、系統性、発展性、興味性などに基づいてカリキュラムの構築に努めている。

調査を通じて言えることは、済南市には一定規模以上の児童美術学校（楊梅紅国際私立美術学校、繽紛鳥芸術培訓学校、斯瑪特児童美術センター、風塘少兒芸術教育、海狸七色花国際美校、七色花美術学校、番茄田芸術センター、希望美術教育、芸之行国際芸術教育、東方童画少兒美術教育）が10校あり、受けている子供の数は約13000人である。済南市の民間美術学校の数は多く、学生の人数、学校の規模、課程の内容、教育の方法、教材の使用、教員の養成などに格差が生じている。この原因は、現在の中国の民間美術教育が摸索と発展の段階にあるからだと言える。各学校は「採長補短」¹⁷⁾のために、カリキュラムと授業形式などを互いに模倣している。そして系統的な教育システムを形成することが難しくなっている。

一方で、多くの民間美術学校は児童の創造力の育成で学校の特色を宣伝している。教育者としては、子供たちに「想像力を通して、表現力を運用し、創造力を実現する」の学習過程を協力することが必要である。このため、課程内容の構築については、児童の成長規律、性格の特徴を中心に、適切な教育方法、合理的な教材と教具、多様な美術活動などを考慮する必要がある。将来の中国の民間美術教育は本格的に学校教育以外の重要な教育の源泉地になるだろう。

注

- 1) 張印成：「課外校外の教育学」中国美術学院出版社，1997。
- 2) 「少年宮」とは中華人民共和國全土の各地で作られた子供たちの課外活動用の施設で、現在も補習、運動、音楽などさまざまな活動に盛んに利用されている。大都市での少年宮は、区立の少年宮が各区にあり、市立の少年宮があるという形が多い。少年宮は青少年宮とも呼ばれている。
- 3) 中国教育学会少年兒童校外教育専門委員会とは、中国の教育部の学会に属する。「中国の校外教育の工作年鑑」，中国福利会出版社，2004。
- 4) <http://www.stats.gou.cn/tjsj/tjgb/ndtjgb/>，2018.6.11閲覧
- 5) 2018年2月28日「中華人民共和國2017年国民經濟・社会發展統計公報」，<http://www.stats.gou.cn/>

tjsj/zxfb/201802/t20180228_1586531.html, 2018. 6. 11閲覧

- 6) 2017年山東省国民経済と社会発展統計公報
- 7) 「中国青少年の校外活動場所の現状および発展の報告」, 北京大学出版社, 2003.
- 8) 「一人っ子」政策とは、中華人民共和国における人口政策である。とりわけ1979年から2015年まで導入された厳格な人口削減策（計画生育政策）を指し、2014年から緩和されている。
- 9) 「4-2-1」家庭パターンとは、一人っ子である夫婦二人が結婚した後の家庭構成であり、つまり四人の老人、夫婦二人及び子供一人を指す。
- 10) 「楊梅紅芸術教育のホームページ」 <http://www.ymmart.cn/>, 2018. 6. 24閲覧.
- 11) カリキュラムの設置 : http://www.ymmart.cn/ymh/content_101004001.html, 2018. 6. 24閲覧.
- 12) カリキュラムの目的 : http://www.ymmart.cn/ymh/content_101002009.html, 2018. 6. 24閲覧.
- 13) カリキュラムの目標 : http://www.ymmart.cn/ymh/content_101004001.html, 2018. 6. 24閲覧.
- 14) 「簡筆画」とは、簡単な線と固定的な形の児童画である。
- 15) 「範画」とは、美術授業のテーマを理解しやすいために、先生が作った手本である。
- 16) 「4-2-2」家庭パターンとは「単独二胎」の政策によって、夫婦のどちらかが一人っ子である場合、子供を二人産むことができる政策である。
- 17) 「採長補短」とは、人のよいところを取り入れて、自分の短所や足りないところを補うこと。

参考文献

钱初熹：「美術教育理論及方法」（美術教育理論および方法），高等教育出版社，2005.

朱倩：「校外教育机构活动课程的由来」（校外教育機構の活動課程の由来），中国上海教育科研，p13. 2013.

芭巴拉・荷柏豪斯（米）李・漢森：「儿童早期艺术创造行教育」（兒童早期芸術の創造性教育），広西美術出版社，pp. 2-11, 2014.

図版出典

図1～図14 劉霄撮影